

2024年1月5日

The Emerging Markets Weekly

新興国通貨は総じて軟調な出だし

新興国市場:先週末12月29日のアジア時間の新興国通貨は年末を控え、特段材料がない中、大半が小幅な動きにとどまった。MYRが小幅に上昇した。欧米時間、米金利上昇や欧米株式の軟調な動きが大半の東欧通貨の重しとなった。米経済指標は冴えない結果となりドルが売られる場面も見られたが、年内取引最終日だったため大きな動きは見られなかった。ZARは南アフリカの経済指標の良好な結果が好感され値を伸ばした。一方、RUBは前日比▲1.1%下落した。週初1日は元旦のため大半の市場が休場。2日のアジア時間、アジア株式市場の軟調が重しとなり、休場明けの新興国通貨は下落。KRWやCNYが値を下げた。欧米時間は米金利の上昇などが新興国通貨の下押し材料に。また、商品市況の軟調も資源国通貨の逆風となり、新興国通貨は全面安となった。RUBとBRL、ZARは前日比▲1.0%超下落した。3日、アジア時間の新興国通貨は12月FOMC議事要旨の公表を控え概ね売り優勢。MYRやTHBが軟調となった。欧米時間、バーキン・リッチモンド連銀総裁の「追加利上げの可能性はまだ選択肢にある」との発言が米金利の下支えとなった。FOMC議事要旨は利下げ期待が一部巻き戻される内容となるも、公表直後の相場の動きは限定的。ZARやRUBが値を下げた。4日、アジア時間の新興国通貨は前日のFOMC議事要旨のタカ派な内容が意識され大半が下落。KRWやTHBが値を下げた。欧米時間、独12月消費者物価指数が再加速したことを受けてユーロに連れて東欧通貨も上昇した。片や、複数の米経済指標が良好な結果を示し米金利の上昇も継続する中、中南米通貨はまちまち。BRLやRUBは堅調な推移をみせた。

アジア:12月29日に発表の韓国12月消費者物価指数(CPI)は前年比+3.2%と前月から鈍化し、市場予想を下回った。同日公表されたベトナム10~12月期実質GDP成長率は前年同期比+6.72%と7~9月期から加速し、市場予想を上回った。年間では前年比+5.05%と政府目標の同+6.5%を下振れた。31日発表の中国12月製造業購買担当者景気指数(PMI)は49.0と景気拡大・縮小の分け目となる50を3か月連続で下回り、市場予想も下振れた。同日発表の中国12月非製造業PMIは50.4と前月から改善するも、市場予想を下回った。1月2日に公表されたシンガポール10~12月期実質GDP成長率は前年同期比+2.8%と7~9月期から加速し、市場予想を上回った。なお、年間では前年比+1.2%と2022年から鈍化した。同日発表のインドネシア12月CPIは前年比+2.61%と前月から鈍化し、市場予想を下回った。

中東欧・アフリカ:トルコ12月CPIは前年比+64.77%と前月から加速も、市場予想から下振れた。TRYは年初以降、断続的に過去最安値を更新している。

ラテンアメリカ:メキシコ中央銀行(Banxico)は4日に12月14日の金融政策議事要旨を公表した。利下げ開始に際しては慎重な判断が求められるとの意見が大勢だったことが判明した。

金融市場部
マーケット・エコノミスト
堀 堯大
03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

長谷川 久悟
03-3242-7065
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

大島 由喜
03-3242-7065
yuki.ooshima@mizuho-bk.co.jp

欧州資金部
シニア為替ストラテジスト
中島 将行
masayuki.nakajima@mizuhoemea.com

市場概観(中南米)

中南米通貨アウトルック～キャリートレードは続くのか～

金融市場部
長谷川 久悟
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

2023年の新興国通貨は、7～9月期にかけては軟調な動きとなるも、その後は概ね堅調な推移となり、MSCI 新興国通貨指数は、2022年末の1661から1740まで上昇して越年している。本欄では、2023における新興国通貨全般の値動きに関し簡単に分析するとともに、弊社が見通しを公表している中南米通貨(BRL、MXN)に関し、本年の相場予測を説明したい。対ドル・対円での具体的な見通しの数字に関しては、2023年12月27日発刊の『エマージングマーケットマンズリー』や本稿巻末をご参照いただきたいが、本稿では、分量の都合で記載できなかった論点なども併せて説明したい。

2023年の新興国通貨のテーマは、「キャリートレード」

まず、2023年は新興国通貨が上昇したと上述したが、各通貨の選好はどうだったのか。図表1では、弊社がコメント付きで見通しを公表している新興国通貨に関し、2023年のリターンを示している。一見しただけでも、BRLとMXNがトップパフォーマンスだったことがわかる。その一方で、経済制裁やハイパーインフレ、電力供給不安など特殊要因の多かったEMEA通貨はさておき、アジア通貨は概ね軟調な推移となったのが特徴的だ。中南米通貨とアジア通貨の大きな相違点は、金利差だろう。前者の政策金利は2桁であることが珍しくないが、後者はそうではない。そして、『中期為替相場見通し』などで主張してきた通り、2023年はキャリートレードが一定行われた可能性が高い。新興国通貨に関してもこれは例外ではなく、インプライドイールドとキャリートレードは、非常に高い相関性を示している(図表2)。キャリートレードを行う条件の1つである相場の安定性に関しても、EM通貨のボラティリティ指数は、2023年を通じて低下基調にあったことも支えとなった(図表3)。BRLやMXNは代表的な高金利通貨であり、キャリートレードの流行が2023年の値上がりをけん引した可能性が非常に高いだろう。投機筋の動きを確認しても、ネットのロングポジションが大きく積みあがったのが印象的な年だった(図表4、5)。

2024年、キャリートレードは続くのか

では、キャリートレードが本年も続くのだろうか。結論から述べれば、急速な巻き戻しこそ発生しないものの、2023年以上に流行するとは考えていない。言うまでもなく、その最大の要因は金利面だ。現状、BRLの政策金利は11.75%、MXNの政策金利は11.25%となっているが、本年はいずれも大きな幅で引き下げられるだろう。両国中銀の動向に関しては、毎会合直後に『通貨ニュース』を発刊しており、詳しくはそちらを参照いただきたいが、本稿でも簡単に言及したい。ブラジル中央銀行(BCB)に関しては、すでに2023年8月会合より▲50bpずつの利下げが行われているが、目先も同じ幅での利下げが継続しそうだ(図表6)。BCBの中立金利は4.50%～5.00%と考えられ、12か月先の期待インフレ率は4%付近で安定していることを考えれば、着地点はぎりぎり抑制的な水準である、9.00%前後が妥当と考えたい。本年中ごろには、利下げ停止に至るだろう。

メキシコ中央銀行(Banxico)に関しては、利下げに対する距離感を見極めている段階であり、現時点では、2月会合で利下げへの「地均し」を行ったのち、3月会合で利

下げ開始に至ると想定している(図表 7)。ただし、インフレ目標を上回る物価上昇が長らく定着してしまったことを考えると、2024年に関しても、短期実質政策金利は引き締める必要があると見られる。Banxico は、政策金利に関し、民間調査における12か月先の期待インフレ率を引いたものを「短期実質政策金利」とし、これの均衡水準を「中立実質政策金利」としている。なお、Banxico は中立実質政策金利を+1.8%~+3.4%(中心は+2.6%)と考えている(図表 8)。12か月先の期待インフレ率はおおむね+3.5%~+5.5%程度で推移してきたことも併せて考えれば、年末時点の政策金利の着地点は9.00%程度が妥当ではないか。よって、BRL、MXNいずれも、相応の幅での金利低下が見込まれる。

もちろん、相手方であるドルの政策金利に目を移しても、FRB は複数回の利下げを行う可能性が非常に高い。もっとも、2023年12月会合におけるドットチャートで示唆される2024年の利下げ幅は▲75bpとなっており、BRLやMXNと比較すれば非常に小幅だ。もちろん、そもそもの発射台が異なるので、ペースに差が出るのは当然だが、利下げ局面入りもFRBのほうが遅いであろうことから、BCBやBanxicoのほうがハト派と評価できる。総じて、本年はFRB対比で早いタイミングかつ早いペースでの利下げが予想される中、キャリートレードの流行が続くとは考えておらず、BRL、MXNは2023年のようなパフォーマンスを維持できないと考えている。すでに利下げ局面入りしているBRLの値下がり余地は小さいと考えるが、今後利下げ開始が行われるMXNのほうが売られやすいと見込んでいる。

ブラジルとメキシコ、それぞれの注目点は

上記では、BRLとMXNに関し、最も重要な点である金融政策や、キャリートレードに関し論じてきた。要するに、それらは見通しの中心的な要因と言い換えてもよいわけだが、以下では、その他注目すべきイベントや事象について紹介したい。

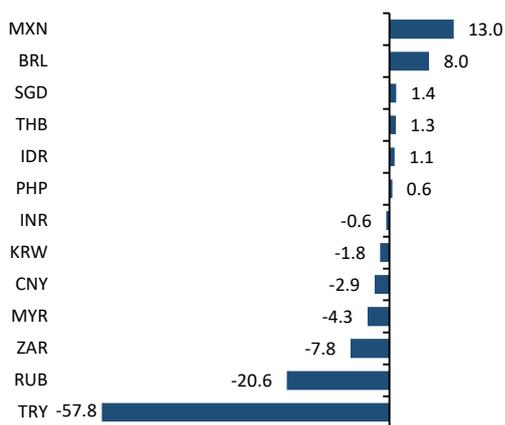
ブラジルでは、財政問題や、それに基づく格付の議論に注目すべきだろう。2023年、7月と12月には、大手格付機関がブラジルの長期債務の格付を引き上げている。新たな財政規則案や、税制簡素化法案の施行を評価しての動きとなっている。ただし、ルラ大統領からは、財政規則の順守を軽視するような発言が度々聞こえてきており、その都度政府高官などから火消しのような発言がみられている状況だ。足許では、城内景気が思ったより好調であるために財政悪化懸念が取りざたされる機会はないが、本年は、一定の景気減速が不可避と考えている。税収の減少などに直面した際、ルラ政権がどのようなアクションを起こすかには警戒を払う必要がある。場合によっては、財政規則の骨抜きに至る可能性も全くないわけではない。そうなれば、大手格付機関が格付やその見通しを再考するだろうことは想像に難くない。

他方、メキシコでは、選挙周りが最大の注目点となる。6月に大統領選挙を控えるが、アンドレス・マヌエル・ロペス・オブラドール・現大統領(通称アムロ大統領)は再選禁止であり出馬できない状態だ。国家再生運動(MORENA)を中心とした与党連合のシェインバウム氏と、野党連合が擁立した国民行動党(PAN)のガルベス氏の一騎打ちとなる公算が大きい。アムロ大統領の正統な後継者たる前者が当選する可能性が高い。図表 9 では、ORACULUS が主要な世論調査をもとに集計した支持率の推移を示しているが、シェインバウム氏が高い支持率を維持し続けていることがわかる。基本的には現状の路線を引き継ぐことを明言しており、シェインバウム氏が就任に至れば、MXN相場にとってはそれほど材料視されないだろう。

むしろ、MXN相場にとっては、米大統領選挙のほうが重要になるだろう。現状、現職のバイデン氏とトランプ氏の再戦となる可能性が高いが、Real Clear Politicsの調査によれば、トランプ氏の支持率が高まっている状況だ(図表 10)。トランプ氏は、在任

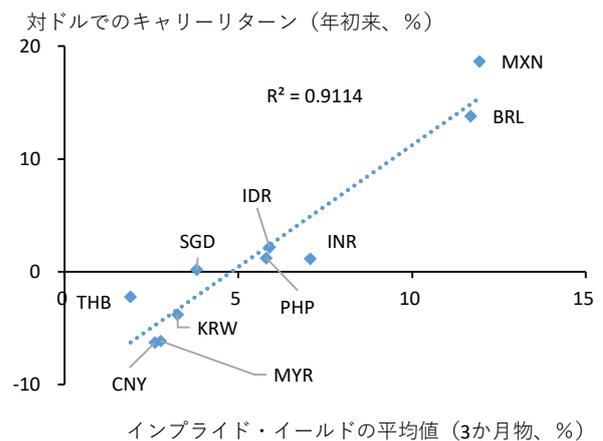
時にメキシコ国境に壁を構築したことからわかる通り、メキシコに対し厳しい姿勢を示すと見込まれる。実際、2016年のトランプ大統領誕生後、MXNは大きく売られた経緯がある。世論調査があてにならないことは最近の大統領選挙でも明らかである以上、決め打ちはできないものの、MXN相場にとっては大きな転換点となりうるだけに、注視を続ける必要がある。

図表 1: 2023 年通年のスポットリターン(対ドル、%)



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

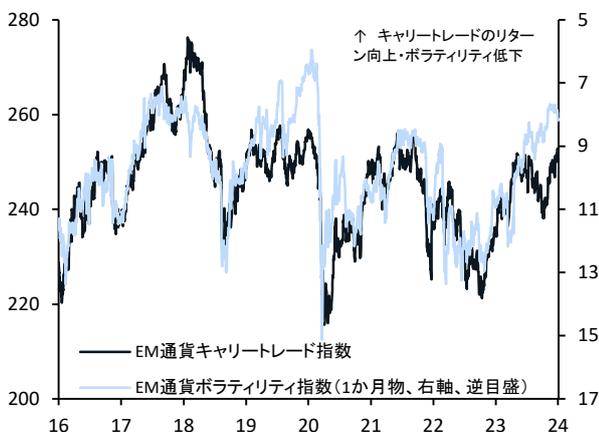
図表 2: インプライドイールドとキャリーリターン(23年通年)



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

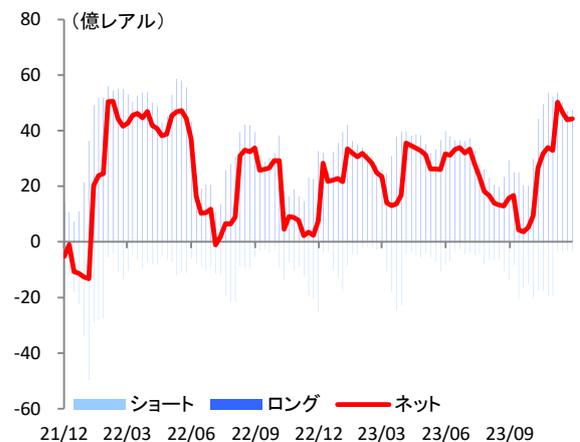
※特殊要因の多かった EMEA 通貨は除外した

図表 3: EM 通貨のボラティリティ指数とキャリートレード指数



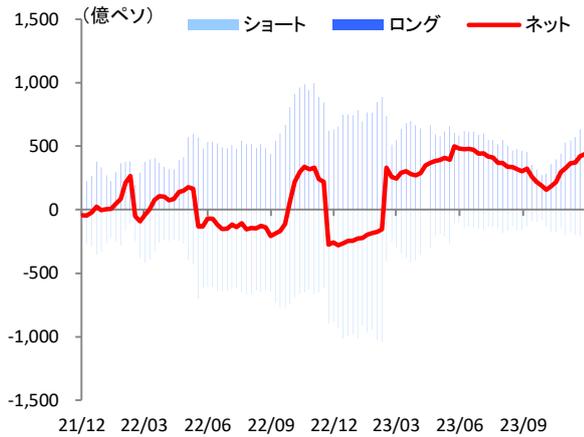
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 4: IMM 通貨先物の BRL ポジション(Non-Commercial)



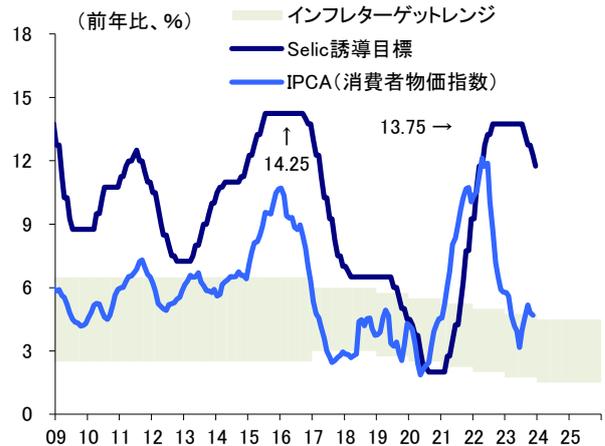
出所: CFTC、ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 5: IMM 通貨先物の MXN ポジション (Non-Commercial)



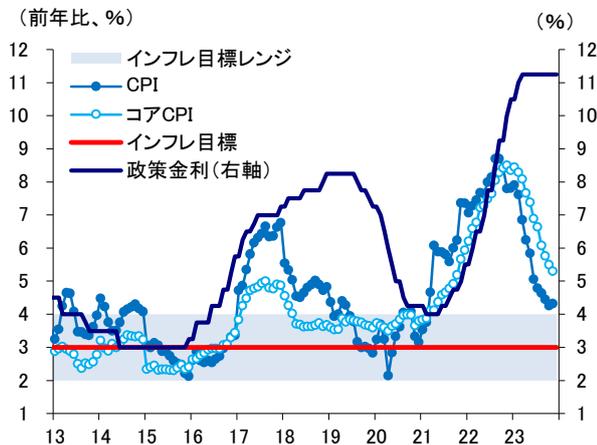
出所: CFTC、ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 6: ブラジルの政策金利とインフレ率 (IPCA)



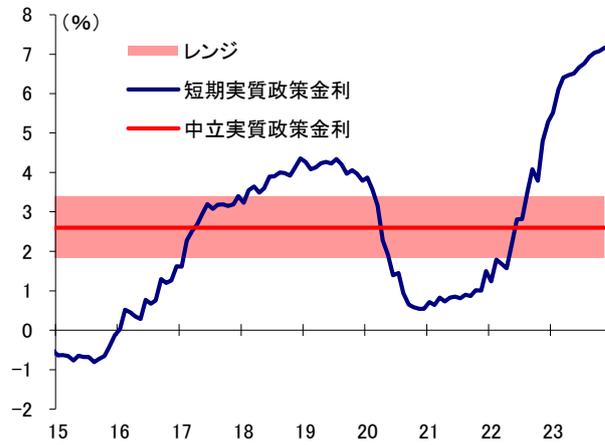
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 7: メキシコの政策金利とインフレ率



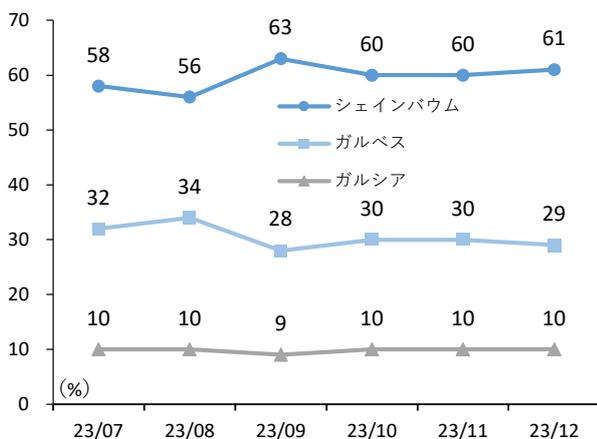
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 8: Banxico の想定する中立実質政策金利



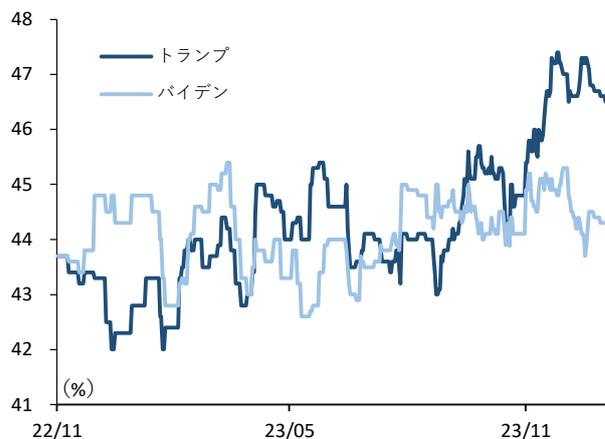
出所: マクロボンド、みずほ銀行

図表 9: メキシコ大統領選挙候補者の支持率



出所: ORACULUS、みずほ銀行

図表 10: 2024 米大統領選挙の支持率



出所: Real Clear Politics、ブルームバーグ、みずほ銀行

市場概観(新興国)

地域ごとの景況感格差が広がる

金融市場部
長谷川 久悟
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

S&P Global 社が集計するグローバル購買担当者指数(PMI)によれば、12月製造業 PMI は49.0と11月(49.3)から低下し、16か月連続で中立水準(=50)を割り込んでおり、製造業の景況感は明確に下向きだ。先進国(47.7→47.0)は生産指数や新規受注指数を中心に低下し、15か月連続で中立水準割れを記録した。片や、新興国(50.9→50.9)はまちまちの内容となり、11か月連続で中立水準超えを維持した(図表1、2)。また、グローバル非製造業 PMI(50.6→51.6)は前月に続き上昇。内訳を確認すると、先進国(50.0→50.6)、新興国(52.2→53.8)いずれも上昇した。

これらを合わせたコンポジット PMI は51.0と前月(50.5)に続き上昇し、11か月連続で中立水準超えを維持。世界の実質 GDP 成長率は7~9月期に+3.15%(前期比年率)と、前四半期から伸びが加速した(図表3)。PMI の推移を確認する限り、10~12月期は減速基調に切り返していると考えたい。

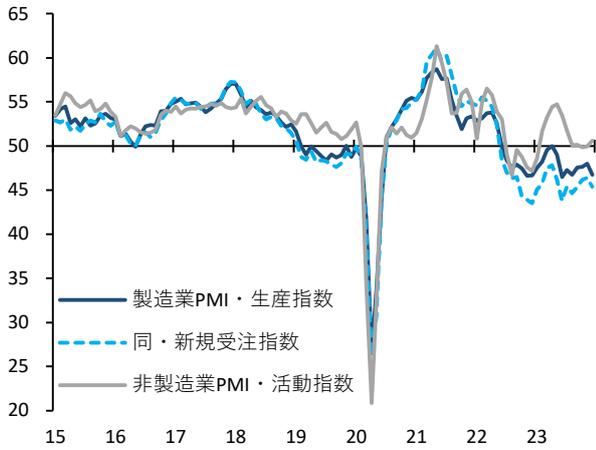
12月グローバル製造業 PMI の特徴は、地域ごとの色彩の違いだ。新興国が先進国対比で優勢であることには言及してきたが、足許では新興国内でも差異が出始めている。具体的には、BRIC の好調さと、ASEAN の軟調さの対比が目立つ(図表4)。ASEAN では、ハイテク産業における楽観姿勢後退により、アジア全域の需要減退が警戒されたようだ。一方 BRIC は、中国経済の底入れや、軍需で経済が好調なロシアが指数をけん引した。外需依存度が PMI の強弱を決定しているようにも見受けられ、今後も斑模様な景況感の推移が見込まれる。

製造業 PMI の構成指数別では、入荷遅延以外の全項目が PMI の低下に寄与した。生産指数は、先進国で大きく低下(図表5)。5月以来の中立水準復帰を目前に、足踏みしている。新規受注も新興国主導で低下(図表6)。18か月連続で中立水準割れを継続しており、短期の先行きは依然弱い状態が続いている。また、購買品在庫は、先進国・新興国いずれも低下(図表7)。14か月連続で中立水準割れを記録しており、在庫取り崩しの流れは継続中だ。一方、雇用指数は新興国で大きく低下した(図表8)。20年8月以来の低位となっており、採用意欲の減退が、雇用削減に移行した可能性が指摘される。なお、入荷遅延(逆インデックス)は、7か月連続で低下も、中立水準超えを維持した。

個別の新興国では、タイ製造業 PMI の軟調推移に着目したい。12月には45.1と11月(47.6)から低下し、20年6月以来の低水準に沈んだ。5か月連続で中立水準割れを継続しており、製造業の景況感は明確に下向きだ。詳細を確認すると、生産指数や新規受注指数の悪化が顕著な一方、仕入価格指数が上昇基調にあることがやや気がかりだ。もちろん、仕入価格指数は過去のトレンドに比べれば低水準なのでインフレ再燃懸念とまではいかないが、ここまで需要が弱まっているのにも関わらず、ディスインフレ圧力の弱まりが示唆される状況はいささか不可解だ。公表元も、「製造業者にとって憂慮すべき傾向」と指摘しており、さらなる企業活動の下押し要因になるかに注目が集まる。

(注)各国・地域別の PMI のグラフについては、本日付の通貨ニュースでご確認いただけます。

図表 1: 先進国



出所: S&P Global、みずほ銀行

図表 2: 新興国



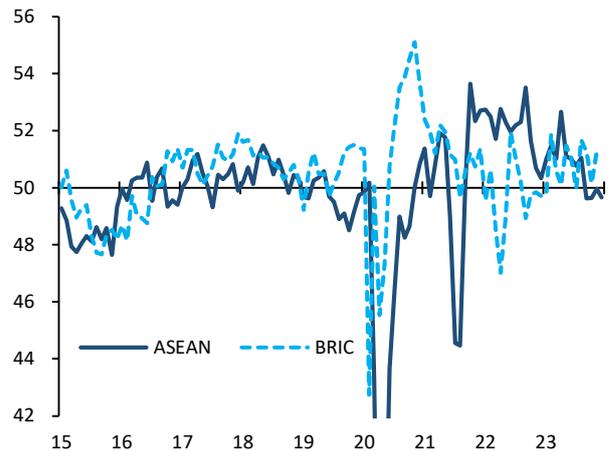
出所: S&P Global、みずほ銀行

図表 3: グローバルのコンポジット PMI と GDP 成長率



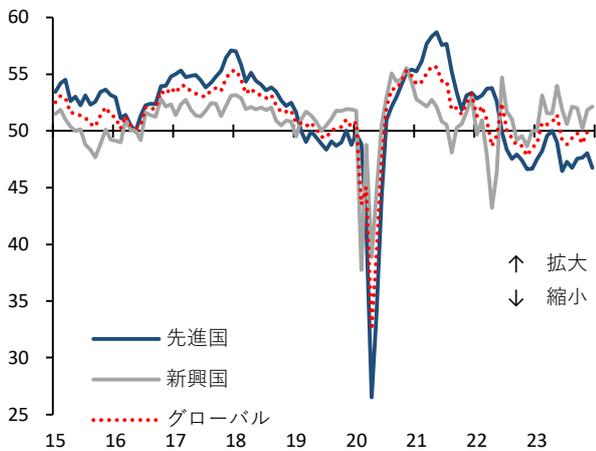
出所: S&P Global、ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 4: 製造業 PMI・地域別



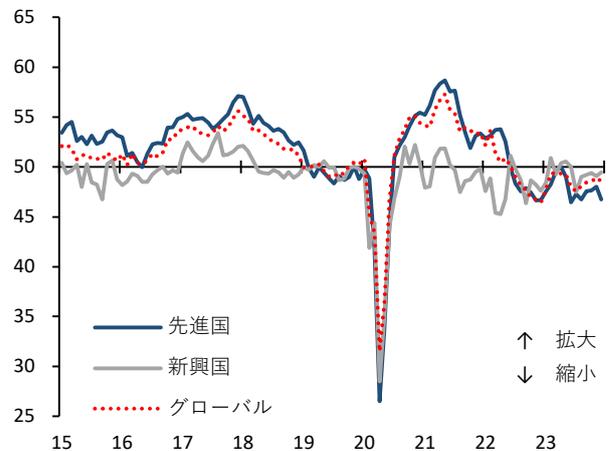
出所: S&P Global、みずほ銀行

図表 5: 製造業 PMI・生産指数



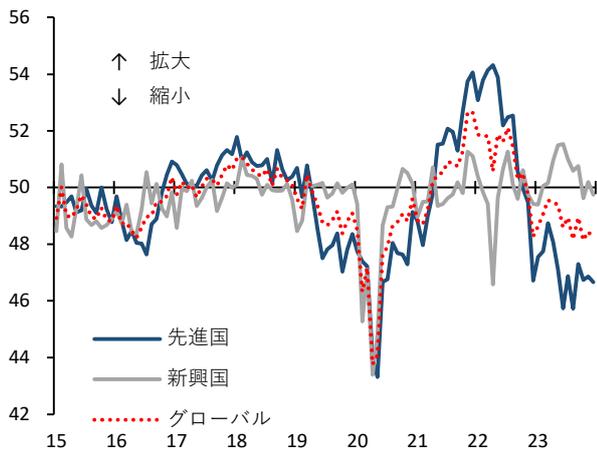
出所: S&P Global、みずほ銀行

図表 6: 製造業 PMI・新規受注指数



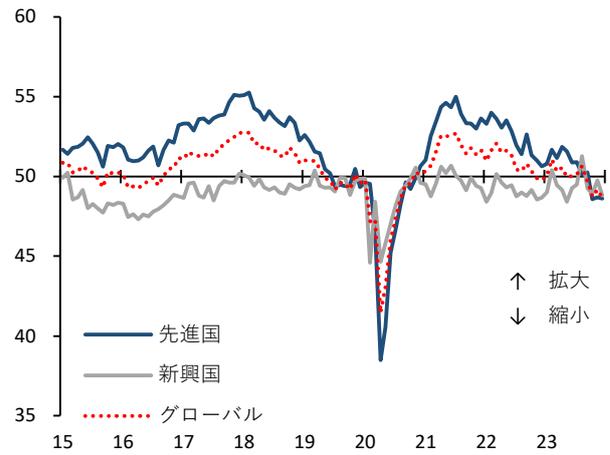
出所: S&P Global、みずほ銀行

図表 7: 製造業 PMI・購買品在庫指数



出所: S&P Global、みずほ銀行

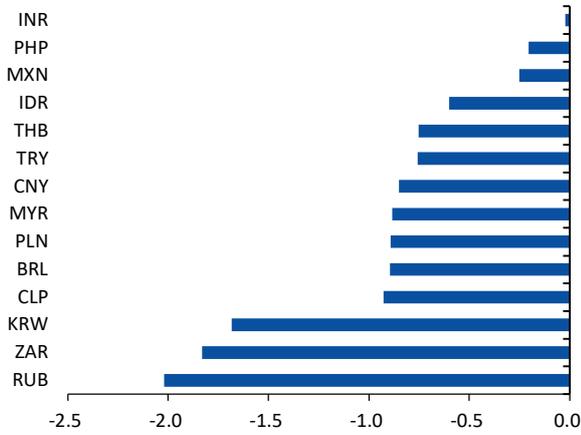
図表 8: 製造業 PMI・雇用指数



出所: S&P Global、みずほ銀行

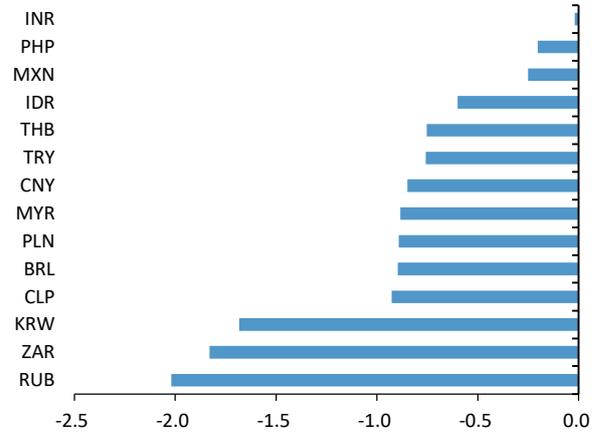
資産別騰落率

為替週間騰落率(対ドル、%)



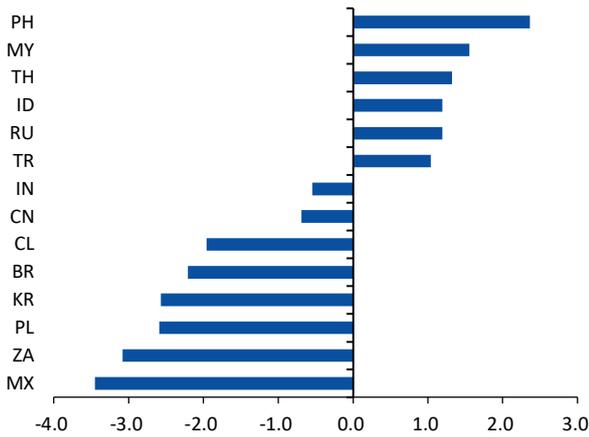
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

為替年初来騰落率(対ドル、%)



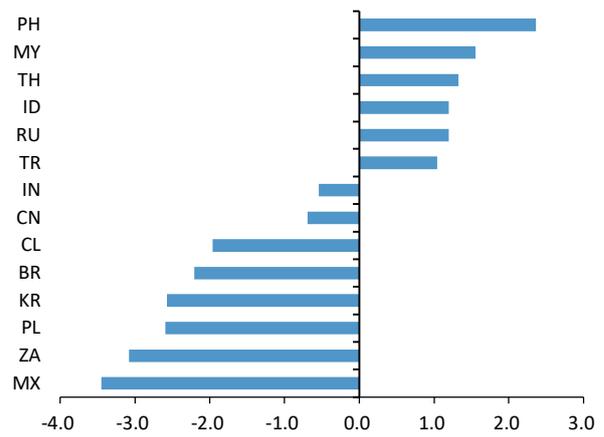
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

株価週間騰落率(%)



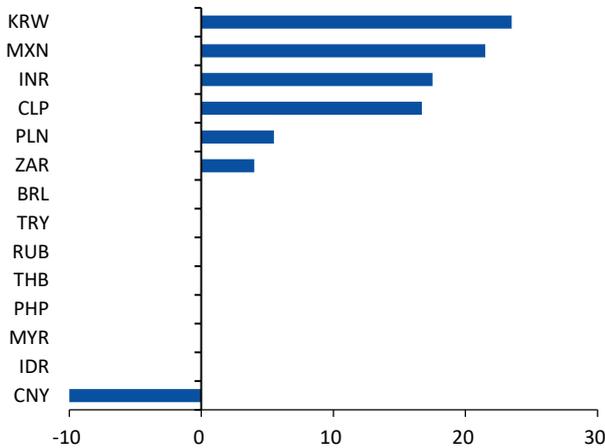
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

株価年初来騰落率(%)



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

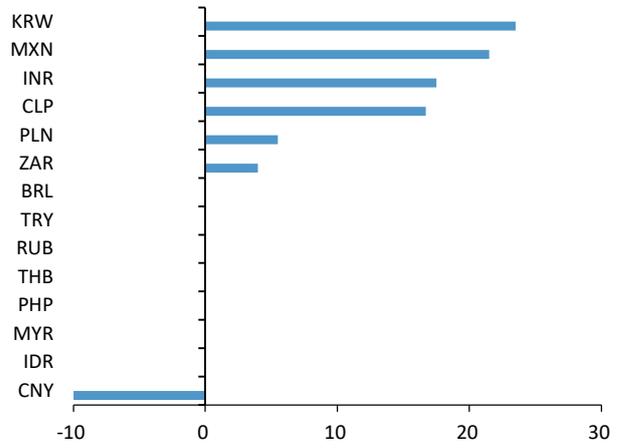
5年物スワップレート週間変化(bp)



注: データの都合によりタイ、ブラジルの値は未掲載。

出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

5年物スワップレート年初来変化(bp)

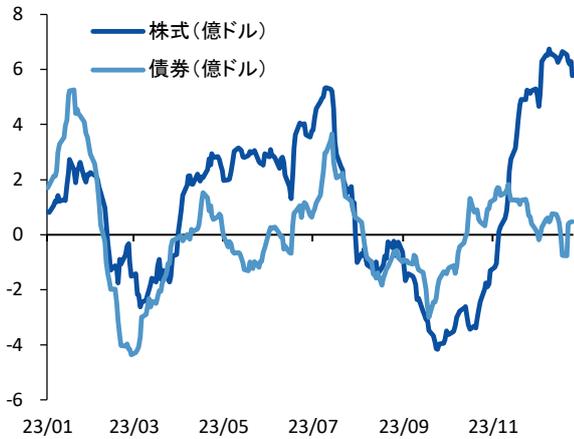


注: データの都合によりタイ、ブラジルの値は未掲載。

出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

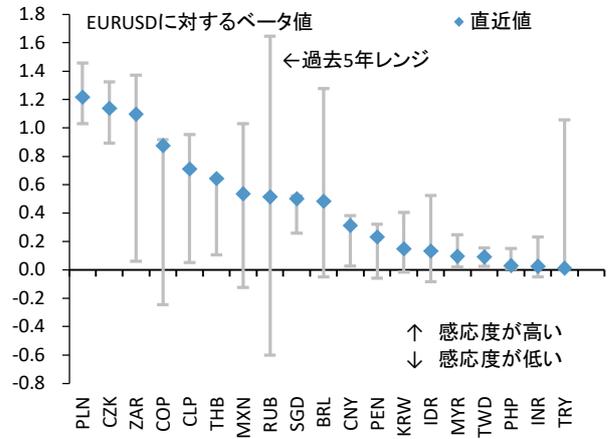
チャート集

主要新興国への証券投資(4週間移動平均)



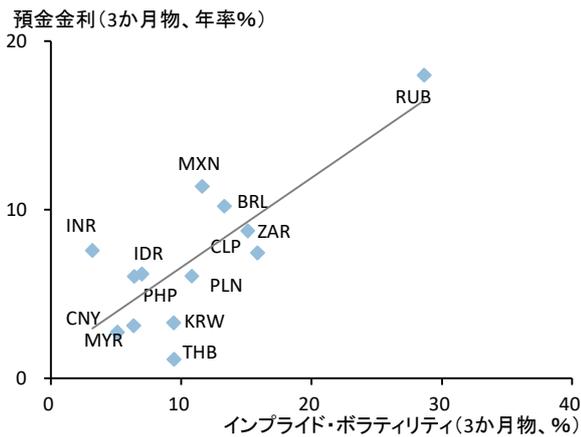
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

EM通貨(対ドル)のEURUSDに対する感応度(過去12か月)



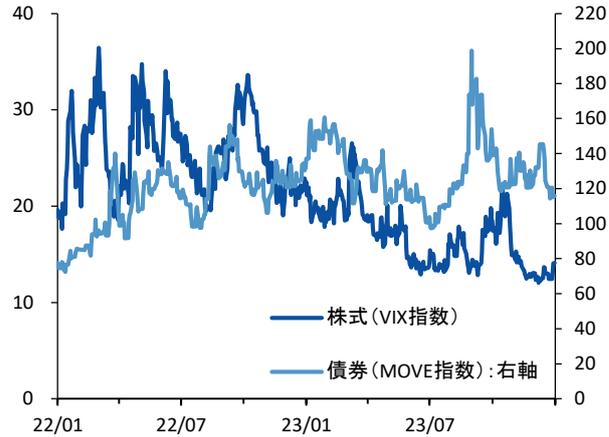
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国の預金金利と為替ボラティリティ



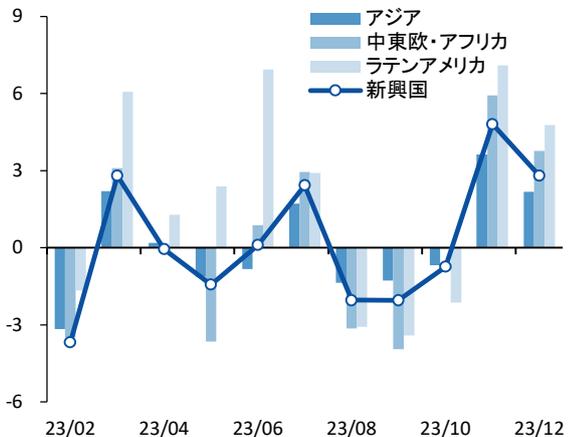
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

株式と債券のボラティリティ(VIX指数、MOVE指数)



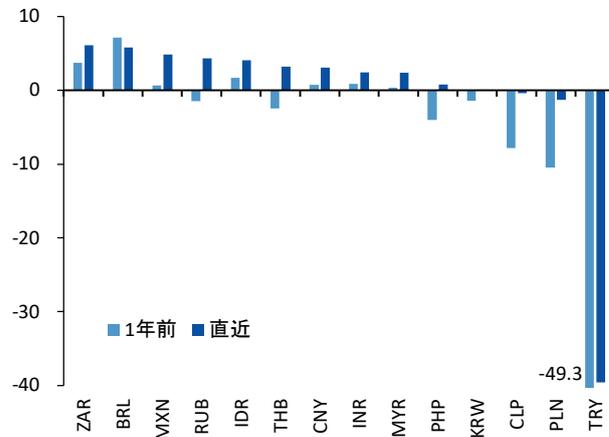
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国現地通貨建て国債月次パフォーマンス(%)



出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

実質金利(10年物国債金利 - 消費者物価上昇率、%)



出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国経済カレンダー

日付	国	経済指標・イベント	市場予想	発表値	前回値	修正値
エマージングアジア						
1月1日 (月)	韓国	貿易収支	\$6200m	\$4480m	\$3800m	\$3778m
2日 (火)	シンガポール	GDP(前年比)	1.8%	2.8%	1.1%	1.0%
2日 (火)	中国	Caixin中国製造業PMI	50.3	50.8	50.7	--
2日 (火)	インドネシア	CPI(前年比)	2.7%	2.6%	2.9%	--
3日 (水)	シンガポール	購買部景気指数	--	50.5	50.3	--
4日 (木)	中国	Caixin中国PMIサービス業	51.6	52.9	51.5	--
5日 (金)	フィリピン	CPI YoY 2018=100	3.9%	--	4.1%	--
5日 (金)	タイ	CPI(前年比)	-0.4%	--	-0.4%	--
5日 (金)	シンガポール	小売売上高(前年比)	2.2%	--	-0.1%	--
5日 (金)	台湾	CPI(前年比)	2.7%	--	2.9%	--
8-10日	フィリピン	貿易収支	-\$4260m	--	-\$4175m	--
9日 (火)	韓国	国際収支:経常収支	--	--	\$6796.1m	--
9日 (火)	台湾	貿易収支	--	--	\$9.80b	--
11日 (木)	マレーシア	鉱工業生産(前年比)	--	--	2.7%	--
11日 (木)	韓国	BOK Base Rate	--	--	3.50%	--
12日 (金)	中国	CPI(前年比)	-0.3%	--	-0.5%	--
12日 (金)	中国	PPI(前年比)	-2.6%	--	-3.0%	--
12日 (金)	インド	鉱工業生産(前年比)	--	--	11.7%	--
12日 (金)	インド	CPI(前年比)	--	--	5.6%	--
12日 (金)	中国	貿易収支	\$80.75b	--	\$68.39b	\$68.40b
中東欧・アフリカ						
1月3日 (水)	トルコ	CPI(前年比)	65.0%	64.8%	62.0%	--
3日 (水)	トルコ	PPI 前年比	--	44.2%	42.3%	--
10日 (水)	トルコ	鉱工業生産(前年比)	--	--	1.1%	--
11日 (木)	南ア	製造業生産(季調前/前年比)	--	--	2.1%	--
12日 (金)	トルコ	経常収支	--	--	0.19b	--
ラテンアメリカ						
1月3日 (水)	メキシコ	送金総額	--	\$4908.1m	\$5811.5m	--
3日 (水)	ブラジル	経常収支	-\$430m	-\$1553m	-\$230m	-\$39m
3日 (水)	ブラジル	海外直接投資	\$4000m	\$7780m	\$3306m	--
4日 (木)	ブラジル	融資残高	--	5655b	5594b	--
5日 (金)	ブラジル	FGVインフレ率IGP-DI(前月比)	0.7%	--	0.5%	--
5日 (金)	ブラジル	純債務対GDP比	60.4%	--	60.0%	--
5日 (金)	ブラジル	鉱工業生産(前年比)	0.9%	--	1.2%	--
6日 (土)	ブラジル	貿易収支(月次)	\$7700m	--	\$8776m	--
9日 (火)	メキシコ	CPI(前年比)	4.6%	--	4.3%	--
9-13日	メキシコ	ANTAD既存店売上高(前年比)	--	--	5.3%	--
10日 (水)	メキシコ	総設備投資(季調前、前年比)	--	--	21.9%	--
11日 (木)	ブラジル	IBGEインフレIPCA(前月比)	--	--	0.3%	--
11日 (木)	メキシコ	鉱工業生産(季調前/前年比)	--	--	5.5%	--

注:2023年1月5日現在、信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性を全面的に保証するものではありません。
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

為替相場見通し

	2023年 1～12月(実績)	SPOT	2024年 3月	6月	9月	12月	2025年 3月
対ドル							
エマージングアジア							
中国人民幣 (CNY)	6.6910 ~ 7.3503	7.1608	7.05	7.00	7.00	6.95	6.90
香港ドル (HKD)	7.7861 ~ 7.8500	7.8084	7.80	7.80	7.79	7.78	7.77
インドルピー (INR)	80.883 ~ 83.478	83.230	83.8	84.5	83.5	82.0	80.8
インドネシアルピア (IDR)	14565 ~ 15969	15491	15400	15710	15520	15350	15200
韓国ウォン (KRW)	1216.30 ~ 1363.67	1310.15	1280	1270	1260	1240	1230
マレーシアリング (MYR)	4.2250 ~ 4.7937	4.6350	4.62	4.73	4.68	4.61	4.58
フィリピンペソ (PHP)	53.628 ~ 57.084	55.495	55.2	56.9	56.0	55.2	54.8
シンガポールドル (SGD)	1.3032 ~ 1.3764	1.3304	1.34	1.38	1.35	1.33	1.32
台湾ドル (TWD)	29.608 ~ 32.509	30.996	30.5	30.0	29.6	29.2	29.0
タイバーツ (THB)	32.57 ~ 37.24	34.54	35.5	36.1	35.2	34.2	34.0
ベトナムドン (VND)	23415 ~ 24620	24370	24300	24500	24100	24000	23900
中東欧・アフリカ							
ロシアルーブル (RUB)	67.0415 ~ 102.3371	91.3159	90.0	92.0	94.0	96.0	98.0
南アフリカランド (ZAR)	16.6950 ~ 19.9204	18.7324	18.0	18.4	18.8	19.2	19.6
トルコリラ (TRY)	18.4339 ~ 29.5964	29.7887	29.5	30.0	29.0	28.0	27.0
ラテンアメリカ							
ブラジルリアル (BRL)	4.6967 ~ 5.4798	4.9007	5.00	5.10	5.03	5.00	5.00
メキシコペソ (MXN)	16.6262 ~ 19.5882	17.0088	17.9	18.2	18.4	18.5	18.6
対円							
エマージングアジア							
中国人民幣 (CNY)	18.793 ~ 20.945	20.210	19.72	19.57	19.29	19.28	19.57
香港ドル (HKD)	16.295 ~ 19.457	18.518	17.82	17.56	17.33	17.22	17.37
インドルピー (INR)	1.559 ~ 1.823	1.738	1.66	1.62	1.62	1.63	1.67
インドネシアルピア (100IDR)	0.831 ~ 0.975	0.933	0.903	0.872	0.870	0.873	0.888
韓国ウォン (100KRW)	9.915 ~ 11.674	11.032	10.86	10.79	10.71	10.81	10.98
マレーシアリング (MYR)	29.106 ~ 32.387	31.038	30.09	28.96	28.85	29.07	29.48
フィリピンペソ (PHP)	2.325 ~ 2.715	2.584	2.52	2.41	2.41	2.43	2.46
シンガポールドル (SGD)	96.55 ~ 112.24	108.80	103.89	99.28	99.78	100.90	102.12
台湾ドル (TWD)	4.205 ~ 4.755	4.667	4.56	4.57	4.56	4.59	4.66
タイバーツ (THB)	3.770 ~ 4.290	4.187	3.92	3.80	3.84	3.92	3.97
ベトナムドン (10000VND)	0.5430 ~ 0.6235	0.5933	0.57	0.56	0.56	0.56	0.56
中東欧・アフリカ							
ロシアルーブル (RUB)	1.422 ~ 1.948	1.583	1.54	1.49	1.44	1.40	1.38
南アフリカランド (ZAR)	6.909 ~ 8.337	7.723	7.72	7.45	7.18	6.98	6.89
トルコリラ (TRY)	4.744 ~ 7.482	4.833	4.71	4.57	4.66	4.79	5.00
ラテンアメリカ							
ブラジルリアル (BRL)	23.723 ~ 31.212	29.520	27.80	26.86	26.84	26.80	27.00
メキシコペソ (MXN)	6.651 ~ 8.778	8.500	7.77	7.53	7.34	7.24	7.26

注:1. 実績の欄は2023年12月31日まで。SPOTは1月5日の7時5分頃。

2. 実績値はブルームバーグの値。

3. 予想の欄は四半期末の予想。

出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。